若林敬子（東京農工大学大学院教授）
2．「ドイツ－オランダ語圏の出生動向と家族政策」　原　俊彦（北海道東海大学教授）

大淵寛会長（中央大学教授）をはじめ20名（会員外あるいはジャーナリストも含む）の参加者があり活発な質疑がなされた．（佐藤龍三郎記）

日本地理学会2003年度春季学術大会

日本地理学会2003年度春季学術大会が，2003年３月29～30日，東京大学本郷キャンパス（文京区）において開催された．口頭178件，ポスター・コンピュータ67件の計245件の一般発表，および42件の発表を含む５つのシンポジウムが行われた．発表件数は増加傾向にあるが，近年特にポスターセッションの増加が目立っている．人口関連分野についても多数の報告がなされたが，以下主なものについて紹介する．

「バンコク大都市地域における近年の人口都市化と人口移動の動向－2000年センサスの結果から」
中川聡史（神戸大学）
「タイにおける1960－70年代人口動態と人口移動との関連の地域差」　高橋眞一（神戸大学）
「都心周辺部への定住－1990年代の名古屋における人口変動と住宅再開発」
尾崎由利子（名古屋大学・研）
「大隅諸島への移住者－インタビューによる人口移動分析」　谷川典大（鹿児島大学・学）
「都心－千代田区神田小川町－における土地利用の変化と人口高齢化」　長沼佐枝（東京大学・院）
「日本の都市圏における人口変動－ＧＩＳによる地域メッシュ統計の分析」
江崎雄治（専修大学），小池司朗（社人研），武者忠彦，小口高（東京大学）
「全国47都道府県における標高・傾斜と人口密度との関係－ＧＩＳによる地域性の検討」
小口高，伊藤史子（東京大学），青木賢人（金沢大学），江崎雄治（専修大学）
（小池司朗記）

高齢死亡および結婚研究報告に関するドイツ，米国への出張の報告

「加齢率パターンに関する数量的研究 Quantitative Analysys of Aging Rate Pattern」（米国国立加齢研究 NIH 研究助成，主査 Shiro Horiuchi）の一環として，高齢死亡パターンの国際比較と日本における地域変異に関する報告を，ドイツ，マックスプランク人口研究所 Max Planck Max Planck Institute for Demographic Research のセミナー（平成15年１月30日）において行った．Vaupel 教授（所長）をはじめとする研究所の死亡研究グループの出席を得て，米国白人，およびカナダに特異な高齢死亡パターンと沖縄のパターンの類似点や白人，カナダの特異性が1990年代に急速に失われている点に関する研究報告を行い討議が行われた．続いて，米国，ウィスコンシン大学マディソン校，健康加齢に関する人口研究センター The Center for Demography of Health and Aging，および人口生態学センター The Center for Demography and Ecology における二つのセミナー（平成15年２月３，４日）において，同上の研究報告と「わが国の結婚変容に関する人口学的分析」の報告を行った．さらに，米国フィラデルフィアにおいてペンシルバニア大学 The University of